

第2節 にぎわいのあるまちをつくる

現 状 と 課 題

本市の農業は、市民へ新鮮な農作物の提供や自然環境の保全、緑地空間の形成などになくてはならない存在となっています。しかし、近年の都市化の進展による農地の減少、産業構造の変化に伴う農業後継者の不足や農業従事者の高齢化、また、それらを要因とした遊休農地の増加、農地と住宅地との混合など多くの問題を抱えています。

また、市の南北を形成する緑豊かな森林地帯は、自然環境の保全や温室効果ガスの吸収源として多面的な活用が求められます。

一方、市の産業の中心となる商業・サービス業は、国道24号、府県間道路である府県道泉佐野岩出線といった市内を東西・南北に走っている広域幹線道路沿線に、大型量販店や小売店舗、飲食店などのロードサイドショップの出店が進み、広域幹線道路に沿った商業核が形成されています。

また、雇用を確保するため、京奈和自動車道インターチェンジ周辺への流通関連施設や工場など優良企業の誘致や集積に努めていく必要があります。



■農業

区分 年	農業就業 者数(人)	総農家 戸数(戸)	販売農家 戸数(戸)	専・兼業別農家戸数(戸)			経営規模別農家戸数(戸)				
				専業	第1種 兼業	第2種 兼業	0.5㌔ 未満	0.5㌔～ 1.0㌔	1.0㌔～ 1.5㌔	1.5㌔～ 2.0㌔	2.0㌔ 以上
昭和50年	1,783	1,451	—	150	310	991	672	577	174	25	3
昭和55年	1,407	1,402	—	162	243	997	705	527	139	25	6
昭和60年	1,268	1,272	—	184	155	933	641	489	124	16	2
平成 2年	1,138	1,181	—	192	119	870	595	452	111	20	3
平成 7年	1,101	1,091	—	201	114	776	574	409	94	14	0
平成12年	916	1,035	731	137	96	498	572	374	75	12	2
平成17年	817	963	615	142	75	398	581	300	65	11	6

※平成12年農林業センサスから専・兼業別農家戸数は販売農家戸数の内訳(平成7年までは総農家戸数の内訳)。

(資料：国勢調査・農林業センサス)

■商業

区分 年	S57	S60	S63	H3	H6	H9	H11	H14	H16	H19
事業所数	498	318	374	422	395	369	394	329	351	370
従業者数(人)	1,877	1,506	1,861	2,118	2,198	2,620	3,252	2,985	2,999	3,297
年間販売額(百万円)	23,977	24,998	38,385	55,584	45,414	54,426	59,259	56,081	62,420	64,879
商品手持額(百万円)	2,418	2,927	3,896	4,788	4,713	6,573	—	5,754	—	5,941
売場面積(小売業のみ)(㎡)	24,890	23,922	31,051	30,944	50,910	61,393	66,472	60,833	62,088	63,199

※平成11年と16年は簡易調査である。

(資料：商業統計)

■工業

区分 年	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
事業所数	51	50	47	41	43	41	42	43	43	42
従業者数(人)	975	942	921	919	923	860	860	964	947	940
現金給与総額(百万円)	3,261	3,172	3,032	2,789	2,866	2,618	2,369	2,632	2,642	2,528
原材料使用額等(百万円)	6,067	5,434	5,017	4,351	4,323	4,544	3,975	4,298	5,331	5,980
製造品出荷額等(百万円)	13,728	12,945	11,997	10,644	9,976	9,902	9,299	9,844	10,581	10,912

※従業者4人以上の事業所。

(資料：工業統計)

基本方針

農業の担い手の確保、農家の生産意欲の向上を図るとともに、農業経営の安定化に努め、農業の振興を図ります。また、増加傾向にある遊休農地対策に取り組み、農地を保全するとともに、自然環境に配慮した農業用施設の整備に努めます。

林業については、多面的な活用に取り組むとともに、森林地帯の保全に努めます。

商工業・サービス業は、市内の事業者が安定した経営を行えるよう、市、商工会、関係機関が連携し、振興施策を講じます。また、広域道路交通網の整備に伴う、交通アクセスの良さを全面に出した優良企業の誘致に積極的に取り組むとともに、雇用の場の確保に努めます。

成果指標

指標	現状値(H22.4.1)	中間目標値(H27末)	目標値(H32末)
①観光、商工の振興の満足度(再掲)	8.3%	10%	13%
②農林業の振興の満足度	9.3%	11%	12.0%
③市民農園の利用者数	158人	250人	300人
④企業の誘致の満足度	4.9%	10%	20%
⑤事業所数	1,293事業所	1,400事業所	1,500事業所

施策

①農業の振興

(1)農業基盤の整備

- 農住一体型となった自然環境に配慮した農道や用水路など農業用施設の整備を進めます。

(2)農業経営の安定

- 地産地消の推進を図るとともに、JA紀の里や農業団体などと連携を深め、道の駅「根来さくらの里」を中心とした地元農産品の出荷体制の強化を図ります。
- 地産地消の重要性を理解してもらうための食農教育を関係機関と連携し、取り組みます。

- 広域的な観光拠点として整備される旧和歌山県議会議事堂「一乗閣」に、地産地消を含めた農業振興の視点からの有効活用も検討します。
- 各種補助制度の充実、営農資金の利子補給などや、農業振興に関連した新しい事業の研究など、農家が生産意欲を向上する取り組みに努めます。
- 農業の担い手の確保、遊休農地の市民農園等への活用など、関係機関と連携し、農業経営の安定化に努めます。
- 産・官・学の連携のもと、農作物の高付加化や岩出ブランドの開発に取り組みます。

②林業の保全

- みどりの少年団をはじめとする森林保全ボランティアの育成に努めます。
- 既設林道の保全とハイキングコースなどへの活用などを検討します。
- 和歌山県内で伐採された紀州材の需要拡大を促進します。

③商工業・サービス業の振興

(1)商工業・サービス業の活性化

- 国道24号、府県道泉佐野岩出線沿線をロードサイド型の商業核として位置づけし、都市空間としての景観形成を促進します。
- プレミアム付き商品券やいわでクーポンの発行など地域産業の活性化に努めます。
- 商工会と連携し、中小企業利子補給制度の活用や専門家による経営指導、各種研修会等、市内事業

者の育成、経営のサポートを行い、経営基盤強化の支援を行います。

- にぎわいのある「いわで楽市」などの開催により、市内事業者の活性化を図ります。

(2)企業誘致の促進

- 市内の遊休地、空き工場などの情報をデータ化し、和歌山県の関係課と情報を共有し、市内への進出を希望する企業から申し出があった場合、速やかに対応することができる体制を構築します。
- 京奈和自動車道インターチェンジ周辺への流通関連施設や工場など企業の誘致に努めます。

(3)雇用の促進

- 企業誘致を促進し、市内での就労と雇用の機会の拡大に努めます。
- ハローワークや関係機関などと連携し、就労情報の提供を行うとともに、労働者の能力向上に向けた講習会の開催等、就労機会の確保に努めます。